

## 第 10 回新機軸部会 意見書

2022 年 12 月 16 日

経営共創基盤(IGPI)

IGPI グループ会長 富山和彦

## 1. Web3.0 に対する取り組みについて

現在、ある種のバブル崩壊が起きているが、これは過去にもドットコムバブルの崩壊など人類史において何度も繰り返してきた光景である。毎度のことながら、技術の新規性ゆえに曖昧な期待とそれが呼び込む投機的な資金が膨張し、それが当事者の若さゆえの古典的な不祥事の発生をきっかけに収縮、調整が起きていると見るべきである。Web2.0 が本当に花開き新たな産業群を形成したのがドットコムバブルの崩壊後であったように、Web3.0 と総称される新しい技術群から本当のイノベーションが生まれ、新たな産業的、社会的価値が生まれとすればこれからであり、それを促すようなレベルプレイングフィールドの整備を怠るべきではない。同時に古今東西、新しい発明やイノベーションを使いこなすにあたって人間が犯す過ちは、本質的に極めて近似しており、この人間の根源的な愚かさをテクノロジーで克服できるという幻想も持たないことが重要である。

## 2. スタートアップエコシステムのガラパゴス化について

スタートアップのイノベーションビジネスフロンティアは mRNA ワクチンに代表されるように着々とディープテックサイドにシフトしており、ここでは言語や文化に制約されないで、グローバルビジネス領域にさらにシフトが起きる。また、ベンチャーキャピタル市場もこの 10 年間で急激にグローバル化が進み、北米、欧州（特に北欧）、イスラエル、シンガポールなどの先端地域はほぼ世界的に一つの VC 資本市場に包摂され、同じ言語、同じビジネスプラクティス（契約書や投資スキーム）、同じような顔ぶれで運営されるようになってきている。そしてディープテックに必須となる数百億円の資金調達が普通に行われるようになってきている。しかし、我が国のスタートアップエコシステムはこれらグローバルモードの世界からみるとガラパゴス的なもの（少ない資金調達で短期 IPO することがメインシナリオの市場）になっており、それがユニコーンの顕著な少なさにも表れている。

この背景には、税制、SO 制度、労働法、在留資格などの制度的な問題もあるが、民間の側のビジネスプラクティス、グローバル標準のそれを使いこなすための起業家、キャピタリスト両方のリテラシーとスキルの問題もある。後者はその気になればすぐにも民間側で解決可能である。我が国はディープテックに関するクラスターに恵まれて

おり、加えて経済安全保障問題の顕在化で、日本の立地的な魅力度は、グローバルトップクラスの人材にとっても、VCにとっても高まっている。チャンスである。制度、ビジネスプラクティスの両面でレベルプレイングフィールドの整備を急ぐべし。

### 3. 知識集約型イノベーションと分業力の抜本強化

加えて、バイオ領域や素材領域、そしてグリーン（エネルギー）イノベーション領域がその典型だが、ディープテックの領域でベンチャー主導の不連続なイノベーションを実現するうえで、スタートアップであれスピノフであれ、圧倒的に人的資本とその生産物である無形資産で勝負するベンチャーフェーズと、治験、量産、営業マーケティングなど設備集約的、労働集約的なデリバリーフェーズとの間で、経済社会的に分業体制が整っていること、ベンチャー側、大企業側がお互いに高い分業力を持っていることが、トータルなイノベーションエコシステムにとって極めて重要である。

しかしながら、現状、日本のディープテックベンチャーの多くは、欧米と比べてガラパゴスゆえに資金が集まりにくいにも関わらず、自前で量産化技術の開発まで踏み込んだうえに自ら量産、販売まで目指す「自前主義ベンチャー」が少なくない。これではディープテックにおいて成功する確率は極めて低くなるし、資金と人材が不足して国内の小さな市場にしか展開できない。日本の大企業の多くもクローズな自前主義の呪縛は未だ強烈で、欧米の大企業、たとえばファイザーのようにベンチャーのイノベーションの果実を大胆に取り込むことができず、大学との共同研究でも共同特許（その多くが活用されない死蔵特許になる）に拘ったり、スピノフベンチャーにガチガチの協業避止義務や特許の使用制限を付けたりする。ベンチャー企業も、大企業も自らの比較優位、競争優位を冷徹に認識して、破壊的イノベーションフェーズの活動は不連続なものとしてモジュール化、オープン化して分業すると割り切る必要がある。かかる状況の大転換を促し、分業力を飛躍的に高めるうえでも、レベルプレイングフィールドの整備を急ぎ、こうした分業が当たり前になっている欧米の一流 VC と欧米の大企業をどんどん日本に呼び込み、大暴れをさせ、「泰平の眠りを覚ます」きっかけとすべきである。